

令和3年度 卒業論文

名詞化接尾辞「一み」の新しい用法について

広島大学文学部人文学科
日本・中国文学語学コース
日本文学語学専攻
B181311 有馬桃子

目次

1. はじめに
2. 先行研究
 - 2.1 「一み」の従来の用法についての研究
 - 2.2 「一み」の新しい用法についての研究
 - 2.3 「一み」の語基の変遷について
3. 調査の方法
4. 調査結果の検討・分析
 - 4.1 新しい「一み」の認知
 - 4.2 新しい「一み」の使用
 - 4.3 従来の「一み」の用法の認知
 - 4.4 言葉ごとの違和感の程度について
 - 4.5 使用の実態について
 - 4.6 メディア内で用いられる「一み」
 - 4.7 非使用者から見た新しい「一み」の印象
 - 4.7.1 Q56. 徹夜したからねむみがすごい
 - 4.7.2 Q57. 高級み溢れるパッケージ
 - 4.7.3 Q58. その解釈は分かりみが深すぎる
5. 考察
 - 5.1 新しい「一み」の用法と使用者の拡大
 - 5.1.1 SNSにおける新しい「一み」の拡大
 - 5.1.2 リアルにおける新しい「一み」の拡大
 - 5.2 品詞による用法の違い
 - 5.3 「一み」と「一味」の印象から見た用法の違い
 - 5.4 新しい「一み」に接続しやすい言葉の傾向
6. まとめ・今後の展望

1. はじめに

「やばみ」「うれしみ」といった言葉を聞いたことはないだろうか。近年、SNSを中心に名詞化接尾辞「一み」にこれまで接続できなかった形容詞や名詞、動詞などが接続するという新しい「一み」の用法が生まれ、いたる所で使用されている(以下、新しい「一み」とする)。

これらの新しい言葉は「若者言葉」「ネット用語」など、若年齢層における流行りの中の一過性の言葉として扱われることが多く、誤用であるとする人も少なくない。しかし、新しい「一み」は継続して使用されており、SNS上だけでなく、現実のコミュニケーションにおいても複数使用が確認できるⁱⁱ。したがって筆者は、新しい「一み」は単に誤用や若者言葉と括れるものではなく、日本語学的特徴を持ちながら用法を変化させており、今後新たな用法として定着する可能性があるのではないかと考えた。

2020年12月に実際に使用者がどのような機能を期待して新しい「一み」を用いているか、新しい「一み」がどの程度認知されているかを明らかにすることを目的に一次調査を行った。結果、回答者の半数以上が新しい「一み」を日常的に使用し、SNSよりも対面の会話で多く用いていることが明らかとなった。また、機能面では「名詞化機能が失われつつある」「ある言葉が持つ抽象的なイメージを名詞化することで表現したいものとの共通項を表現し、相手と共有しようとする働きを持つ」という特徴を示すことができた。しかし、一次研究では、対象の大半が10～20代の学生だったことや認知、使用の期間、使用目的・意図について設問を設けなかったことから、今後の新しい「一み」の変化と定着について考察を行うまでに至らなかった。

本稿では、新しい「一み」に対する使用者の目的意図・感覚及び非使用者の感じ方の実態を調査することを目的として再びアンケートを行う。その結果に基づき、これまでの「一み」の用法の変化や語基の特徴をまとめ、今後の新しい「一み」の着地点について考察を行っていききたい。

2. 先行研究

2.1 従来の「一み」の用法についての研究

これまで使用されてきた「一み」(以下、従来の「一み」とする)の用法と使用の実態についてまとめておきたい。以下、本稿の引用部分に付されている下線はすべて筆者によるものである。

まず、名詞化接尾辞「一み」の辞書的意義を確認する。

み

[接尾]形容詞または形容動詞の語幹に付いて名詞をつくる。

(1)そのような状態をしている場所をいう。「高み」「明るみ」「深み」など。

(2)その性質・状態の程度やその様子を表わす。「さ」と比べると使われ方は限ら

れる。「厚み」「重み」「苦み」「赤み」「面白みに欠ける」「真剣みが薄い（たりない）」など。

[補注]

(2)の中には、漢語の「味」と混同して意識され、「味」をあて字として用いることも、近代には多い。

(日本国語大辞典第二版 第十二巻 p.603)

庵・高梨・中西・山田(2000)は「「～さ」と同じく形容詞につく接辞でも「～み」は、「厚み」とは言えても「薄み」とは言えないなど、限られた形容詞とともに用いられる生産性の低い接辞」(p.27)「「～さ」が程度を表すのに対して、「～み」は感覚（「痛みが和らぐ」など）や場所（「深みにはまる」など）など様々な意味を持つ点で文法的というよりも語彙的」(p.400)であると述べている。

森田(1989:463-464)では、その限られた形容詞について、こう説明している。

まず、「み」の付き得る形容詞は、

「赤み、明るみ、温かみ、厚み、甘み、ありがたみ、痛み、うまみ、おかしみ、重み、おもしろみ、辛み、悲しみ、臭み、苦しみ、渋み、酸っぱみ、すごみ、楽しみ、強み、懐かしみ、苦み、憎しみ、深み、丸み、柔らかみ、弱み」

といった限られた語である。形容動詞は、

「憐れみを乞う」「真剣みが足りない」「堅実みを増す」

のような特定のものだけで、通常は接続しない。

さらに森田(1989:463-464)は、「一み」の特徴について、「対象から把握される主観的な状態や、感情・感覚を、総体的・全一的な状態概念として表す。」とした。

小出(2000:9)は「一み」がつく形容詞とつかない形容詞を比較することで、「「一み」のつく形容詞は、客体として存在するモノの属性を表すものである。」「「一み」で表される属性を持つ対象は、内部性を持つものである。」「「一み」はその内部の特性に起因すると想定される属性を表す。」という三つの結論を導いている。

一方で杉岡(2005:78-79)は、形容詞以外の「一み」しか接続できない言葉を挙げ、それに共通する特徴を掴むことで「一み」についてこう述べている。

これらはすべて、「一み」が形容詞という品詞の制限を超えて、拡張的に付加したものである。

このような拡張が起こる理由として、「-み」派生名詞の意味が考えられる。「重み、厚み、丸み」などの例からも分かるように、「一み」派生名詞は一般的にある属性の具体的な感覚を名詞として表現する。「一み」派生名詞には、「深み」「高

み」のように「(ある属性を持つ場所)や、「強み」のように「(強い点)を表すものもあるが、(7-10)の拡張の例が「感覚」を表すことから、この「具体的な感覚」が、「-み」という接辞が固有に持つ意味だと考えられる。したがって、ある種の感覚に言及することが必要になったときに、その感覚のもととなる属性を表す語に「-み」を付加することで、その感覚に名前をつけるわけである。「-み」が形容詞以外の品詞に拡張的に付加されている(7-10)の例には、新たな語が作られたという造語的ひびきを持つものが多い。

このように「-み」という接辞は、その接辞固有の「感覚」という特徴から属性を表す形容詞に最も多くつくわけだが、性状や形状を表す語彙であれば、品詞の制限を超えて拡張的につくことが可能になっていると考えられる。

これらの先行研究から、従来の「-み」は

- ・限られた 30 語程度の形容詞・形容動詞にしか接続できない生産性の低い接辞であるが、性状や形状を表す語彙であれば形容詞以外の一部の品詞にも接続する。
- ・対象が内包する属性や感覚、形状に名前を付ける働きを持つ。
- ・従来の「-み」に接続する言葉はレキシコンに保存されており、明確な基準をもって判別するのは困難である。

ということが出来る。

2.2 「-み」の新しい用法についての研究

水野(2017:174)はインターネット上のコミュニケーション媒体 Twitter における新しい「-み」の用例を収集、それに共起する助詞と述部を調査し、新たに 360 語の形容詞が新しいミ形を作ること明らかにし、「これらの新しいミ形は、限られた字数できわめて個人的・内的なことがらを表現する Twitter という場で、読み手に端的に、かつ生き生きと意図を伝える役割を果たしている」と結論づけている。また、多様なミ形が新しく生まれている理由として、抱いた感情を表現するために、副詞「すごく」や「とても」を用いるよりも「-み」と名詞化した語を主語にとり、述部によって程度の甚だしさを示す方がバリエーションが生まれ、新鮮でインパクトの強い表現になるからだとしている。

田中(2020:52-53)は 10 代から 30 歳前後の女学生 103 名を対象とした口語における新しい「-み」の使用状況を調査し、新しい「-み」が口語において非常に多く使用されていることを示した。また、田中は新しい「-み」の使用者本人の意図は①好きなアイドルや有名人を真似たいという意識、②感覚的になんとなくのニュアンス、③言葉そのものの音のかわいらしさの三点であり、日常会話において緩衝や会話を楽しく盛り上

げたいという会話促進機能といった若者語に特有の機能を持つことを指摘している。また、一方で、少なくとも新しい「一み」の用法は2007年には発生し、田中の調査時期である2019年まで同様の使われ方をしていることから、一時的な広まりを見せ、使われなくなっていく流行語とは異なるとしている。

宮内(2021:241-238)は国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)を利用し、書籍全般、雑誌全般、新聞、白書、ブログ、ネット掲示板、教科書、法律などのジャンル内での「一み」の実態調査を行っている。調査において、宮内(2021)は、俳諧用語としての「軽み」「細み」といった語が、建築、映画、茶席に関する文章でその延長線上にある意味で用いられていることから、「感覚」を言語化しなければならないという表現上の需要がある場面においては、接尾辞「一み」はかなりの生産性をもつのではないだろうか。」と考察している。また、30程度の形容詞・形容動詞から構成される従来の「一み」とは異なる使用例が、明治・大正期の文章に初出として見られることを指摘し、このように述べている。

我々が“従来の「一み」と呼んでいるものの来歴もそう古いものではないようである。そうすると、接尾辞「一み」は中世以降ゆるやかに拡張し、近代以降は漢語を語基とする派生が増加、そして現代に至ってさらなる拡張を見せた、というような大きな流れが見出せるのではないだろうか。

これまでとは異なる「一み」の用法は、注目を集めており研究が盛んに行われるようになっていく。以上の先行研究から、新しい「一み」は

- ・個人的・内的な物事を不特定多数に発信する SNS を起源として発生し、会話促進を目的として口語にも用いられるようになっていく。
- ・長期間の使用の継続が確認でき、流行語とは異なる性質を持っている。
- ・「感覚」を言語化する必要のある場において、かなりの生産性を持っている。
- ・初出例が明治・大正期までさかのぼるものもあり、従来の「一み」との区別は明確ではない。

ということが出来る。

2.3 「一み」の語基の変遷について

宮内(2021)は従来の「一み」の拡張について触れ、現在の新しい「一み」もその拡張の一部である可能性を示していた。実際に従来の「一み」の用法が確立するまでに、どのような変化があったのだろうか。

杉本(2015)は、「一み」の語基の変化に関する調査を行い、現代にはない用例として

近世では「あやしみ、かたみ、涼しみ (近松)」「うつくしみ、長み (西鶴)」、近世後期では「おかしみ、おとなしみ (江戸)」「あいらしみ、いやしみ、やさしみ (上方)」、近代では「新し味、おかしみ、恐ろし味、可懐味なつかしみ (漱石)」「新しみ、凄み、柔らかみ (鴎外)」「愛嬌味、芸術味 (志賀)」などを挙げている。杉本は、これらの「一み」には客体の中に含まれた感情を第三者が感じ取ったもの、或いは「一さ」よりも抽象化された感情の観念そのものであると分析している。特に、俳諧や小説といった文学作品においては、物事を客観的に表す「一さ」では表現できない「趣き」や「味わい」を与え、特に漢字表記「一味」の場合にその意味が強まるとしている。また、このように強い造語力を持っていた「一み」が現代では衰退してしまった理由について、現代語では「恐ろし味」「新し味」のように「和語+味」と表記されることは少なく、「和語+み」では「趣き」「味わい」といった価値が薄れてしまうことと、より安定して客観的な立場を表すことができる「一さ」と比べて定着することがなく、「一さ」との差別化のために限られた語基のみ固定化したという2点を挙げている。

先行研究より、近世・近代における「一み」の語基数は幅広く、現代では接続する語そのものに含まれている「趣き」「味わい」を表現するという「一み」の役割が薄れたことが、従来の「一み」の用法に収束した一因であったことがうかがえる。

3. 調査の方法

本稿ではアンケートによる調査及び、その結果に基づく分析を行うⁱⁱⁱ。調査は Google フォームのアンケート機能を用いて行い、SNS を通じて筆者の友人知人を中心に、その友人や家族にも協力してもらい、回答を募った。どの媒体でも掲示、拡散しやすく、データ化も容易に行うことができるため、当該の方法を採用した。調査期間は 2021 年 10 月 15 日(金)から 10 月 19 日(火)の 5 日間とした。

田中(2020)のアンケートでは、新しい「一み」の用法の使用者が主に若者であるとしているため、米川(1997)に基づき調査対象を 10 代から 30 代前後の女性としている。しかし、本アンケートでは、新しい「一み」が日本語母語話者の間でどのような立ち位置にあるのかを確認したいため、回答者の条件を「日本語母語話者」のみとした。

設問に関しては以下の表のとおりである。回答者自身について 5 問、新しい「一み」の使用及び認知の頻度・場面に関する設問が 7 問、従来と新しい「一み」の違和感の程度について例文をもとに回答する設問 34 問、新しい「一み」の使用意図について 6 問、メディア内における新しい「一み」に関する設問が 3 問、新しい「一み」を認知していない回答者から見た新しい「一み」の印象について 3 問、計 58 問設けた。設問の構成は筆者が 2020 年に行った一次調査の回答及び田中(2020)を中心とした先行研究を参考にした。アスタリスクが付されている設問に関しては、複数回答ないし複数選択可とし、より回答者の言語使用の

実態を調査することを試みた。なお、本稿で挙げられている回答はすべて原文のままの引用である。

【表1 アンケート調査の項目】

カテゴリー(設問数)	設問の内容
回答者について (5)	Q1. 性別、Q2. 年齢、Q3. SNSの利用頻度、Q4. 使用しているSNSの名称*、Q5. 新しい「一み」の認知
新しい「一み」の使用及び認知の頻度・場面 (7)	Q6. 使用頻度、Q7. 使用開始の時期、Q8. 使用対象*、Q9 使用場面*、Q10. 認知時期、Q11. 認知場面*、Q12. 従来の「一み」の用法の認知
違和感の程度 (34)	Q13～Q46 従来の「一み」を含めた34例文 ^v に対する違和感を調査した。具体的例文は後述するため、省略する。
新しい「一み」の使用意図 (6)	Q47. 新しい「一み」の使用目的*、Q48. 「一さ」との比較*、Q49. 最近使用した「一み」*、Q50. Q49で回答した「一み」の使用対象*、Q51. Q49で回答した「一み」の使用場面*、Q52. Q49で回答した「一み」の使用意図*
マスメディア (3)	Q53. 新しい「一み」を使用していた媒体*、Q54. Q53で使用されていた新しい「一み」*、Q55. 使用していた人物・場面*
非認知者から見た新しい「一み」の印象 (3)	Q56. 「ねむみ」*、Q57. 「高級み」、Q58. 「分かりみ」

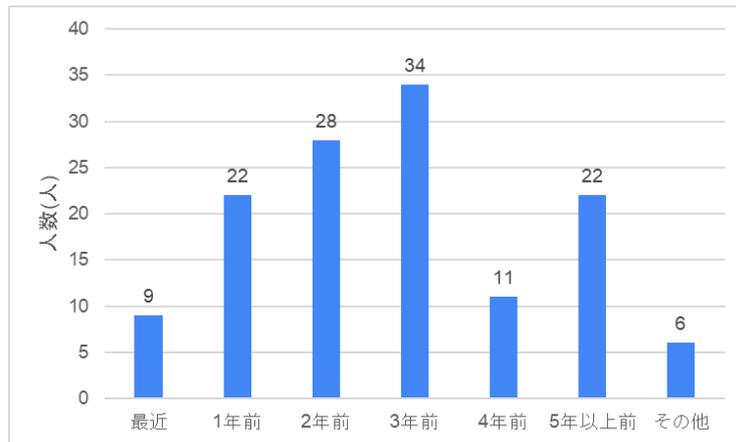
4. 調査結果の検討・分析

本アンケートでは、16から76歳までの男女から167件の回答を得ることができた。これらの回答のうち、明らかな誤回答16件を除いた151件を研究対象とする^v。調査結果の全体は、補助資料として別資料にまとめた。適宜参照されたい。なお、筆者の都合上、27から76歳までの回答は26歳以下と比べてかなり数が少ない結果となった。分析、考察にあたっては、このような年齢ごとのサンプル数の差に十分留意しながら行っていきたい。また、今回SNSの使用頻度による新しい「一み」認知の差異の検討を想定していたが、調査の方法上9割以上の回答者が「SNSを利用する」と回答したため、分析を断念した。

今回の調査結果の検討では、2種類のデータ間の関連性を確かめるために統計的処理を行った。一般にはカイ二乗検定を使用するが、本調査では、観測値と期待値の値に5未満のデータが含まれる場合があるため、フィッシャーの直接確率検定の結果を報告するものとする^{vi}。有意水準は5%とする。

4.1 新しい「一み」の認知 (Q5/Q10/Q11)

新しい「一み」の概要について、アンケートの冒頭で説明したうえでその認知度について調査を行った。新しい「一み」を「知っている」と回答した人は132人(87.4%)、「知らない」と回答した人は19人(12.6%)であった。「知らない」と回答した人のうち、7人(36.8%)が46歳以上であった。また、上記の回答者のうち、「知っている」と回答した人



を対象に、いつ頃から新しい「一み」を見掛けるようになったかについて回答を募集した。

【図1 新しい「一み」の認知開始時期】N=132

図1より、3年前から新しい「一み」を認知していると回答した人が最も多く34人(25.8%)であった。「その他」の回答は「覚えていない」「分からない」「気づいたら」という回答が主であった。

新しい「一み」を認知した場所については「不特定多数へ向けた投稿型SNS (Twitter・Instagramの投稿等)」が最も多く99件(75.0%)、「友人、知人、家族等との会話」が76件(57.6%)、「1対1のチャット型SNS (LINE、Twitter・InstagramのDM、リプライ等)」が56件(42.4%)、「音声を用いた投稿型SNS (YouTubeなど)」が35件(26.5%)であった。「その他」は4件(3.0%)で、「検索」「テレビ、ニュースの特集」「ソーシャルゲーム」が挙げられた。

4.2 新しい「一み」の使用 (Q6/Q7/Q8/Q9)

新しい「一み」がどの程度使用されているのかを確認した。「新しい「一み」を使用するか」という問いに対し、「よく使う」が18件(13.6%)、「たまに使う」54件(40.9%)、「あまり使わない」31件(23.5%)、「全く使わない」が29件(22%)となった。

加えて、新しい「一み」の使用頻度の男女差について述べておきたい。「Q1. 性別」と「Q6. 使用頻度」についてクロス集計表(表2)を作成し、フィッシャーの直接確率検定をおこなったところ $p=0.0290997 (<0.05)$ となり、有意差が認められた。新しい「一み」は女性の方が

好んで使用する傾向があることが明らかとなった。また、「Q2. 年齢」と「Q6. 使用頻度」についてもクロス表(表3)を作成し、フィッシャーの直接確率検定をおこなった。p値は $p=0.0717838(>0.05)$ となり、有意差を認めない可能性が高い結果となった。この結果から新しい「一み」の使用頻度と年齢の関連性は否定されうるが、30代～50代の回答が著しく少ないため、断定するに至らない。今後、中高年層に注目した調査が求められる。

【表2 性別と新しい「一み」の使用頻度】N=132

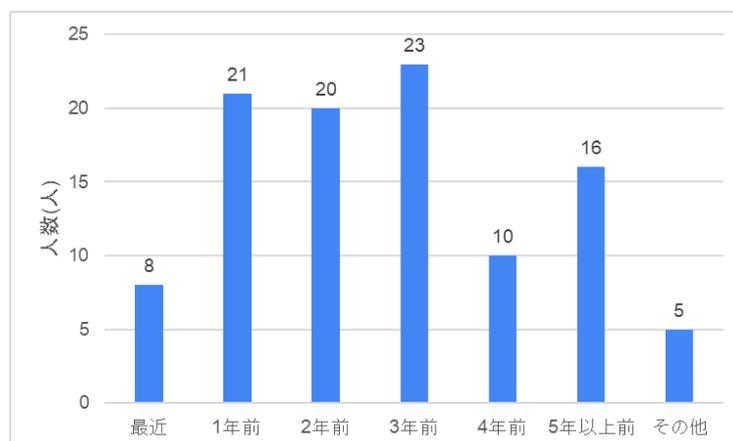
性別 \ 使用頻度	使用頻度			合計
	男性	女性	回答しない	
よく使う	6	12	0	18
たまに使う	11	41	2	54
あまり使わない	8	22	1	31
全く使わない	15	13	1	29
合計	40	88	4	132

【表3 年齢と新しい「一み」の使用頻度】N=132

使用頻度 \ 年齢	年齢					合計
	10代	20代	30代	40代	50代	
よく使う	2	16	0	0	0	18
たまに使う	16	37	0	1	0	54
あまり使わない	8	21	1	0	1	31
全く使わない	9	14	1	2	3	29
合計	35	88	2	3	4	132

「Q6. 使用頻度」で「全く使わない」と回答した人以外を対象に、新しい「一み」の使用開始時期について調査を行った。

下記の図2の通り、新しい「一み」を使用し始めたのは3年前であるとする回答者が最も多く23人(22.3%)であり、約半数が3年以上前から新しい「一み」を使用していることが確認できた。その他の回答は、「分からない」「覚えていない」「気づいたら使用していた」となっており明確に使用開始時期を回答できないほど自然に日常的な語彙として新しい「一み」が使用されている可能性があることが示唆される。



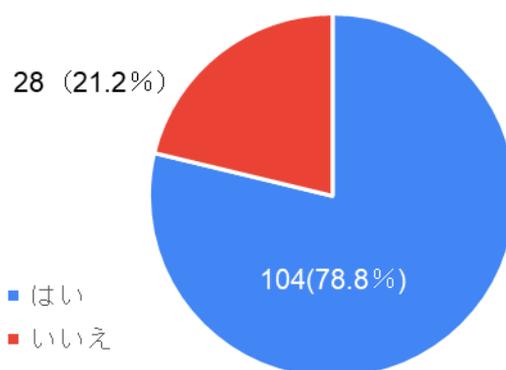
【図2 新しい「一み」の使用開始時期】 N=103

複数回答を可とし、使用対象について聞いた。「親しい友人」が101件(98.1%)、「SNS上の不特定多数・匿名の人」が52件(50.5%)、「家族」が28件(27.2%)、「目下の人(後輩等)」が25件(24.3%)、「それほど親しくない友人」が19件(18.4%)、「目上の人(先生、先輩等)」が5件(4.9%)、「その他(心の中)」が1件(1.0%)であった。「親しい友人」、「SNS上の不特定多数・匿名の人」への使用率が高いことから、新しい「一み」は極めて親しい間柄の人間または SNS 上の不特定の人間に対して好んで使用され、反対に「それほど親しくない友人」や「目上の人(先生、先輩等)」といった現実世界で親密度の低い、または立場が上の人間に対しては使用が忌避されることが確認できた。

また、その使用場面については「友人、知人、家族等との会話」が94件(91.3%)、「1対1のチャット型 SNS (LINE、Twitter・Instagram の DM、リプライ等)」が73件(70.9%)、「不特定多数へ向けた投稿型 SNS (Twitter・Instagram の投稿等)」が53件(51.5%)、「音声を用いた投稿型 SNS (YouTube など)」が5件(4.9%)、「その他(心の中)」が1件(1.0%)だった。

4.3 従来の「一み」の用法の認知 (Q12)

新しい「一み」を使用すると回答した人を対象として、名詞化接尾辞「一み」の従来の用法について説明したうえで、その用法を知っているかどうか回答を募った。結果は以下の図3の通りである。



【図3 従来の「一み」の用法を知っているか】 N=132

「Q6. 使用頻度」と「Q12. 従来の「一み」の用法の認知」に関してフィッシャーの直接確立検定を行ったところ、 p 値=0.568569 (>0.05)となり、有意差を認めない可能性が高いことが分かった。田中(2020: 34)は自身の調査結果を踏まえ、「ほとんどの使用者が従来とは異なる接尾辞「み」が本来は限られた形容詞にしか使用されないものであるということを知っ

ている上で使用しているということが分かる。今回の調査対象者は日本語教育について学ぶ、日本語に対して比較的関心の高い人を対象としていることも関係している可能性があるが、本来の意味を理解し、言葉を変化させ楽しんでいる人も多い」としているが、実際は本来の意味を理解しているかどうかは新しい「一み」の使用に影響を及ぼさないだろうと言える。

4.4 言葉ごとの違和感の程度について(Q13~Q46)

①従来の「一み」

【表4 従来の「一み」の違和感の程度】 N=103

例文	違和感の程度					平均	標準偏差
	1	2	3	4	5		
味に 深み のあるカレー	100(97.1%)	3(2.9%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1.03	0.168983
家庭の 温かみ を感じる	99(96.1%)	2(1.9%)	1(1.0%)	1(1.0%)	0(0.0%)	1.07	0.377352
仕事に対する 真剣味 に欠ける	82(79.6%)	12(11.7%)	3(2.9%)	4(3.9%)	2(1.9%)	1.37	0.874366
使い古されていて 新鮮味 が無いセリフだ	97(94.2%)	6(5.8%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1.06	0.235365
見る角度によって色が変わるところに 妙味 を感じる	15(14.6%)	14(13.6%)	18(17.5%)	22(21.4%)	34(33.0%)	3.45	1.439827
正味 期待はしていなかった。	89(86.4%)	9(8.7%)	1(1.0%)	3(2.9%)	1(1%)	1.23	0.702989
片栗粉を入れて とろみ をつける	102(99.0%)	1(1.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1.01	0.098533
だんだんその仮説が 現実味 を帯びてきた	99(96.1%)	4(3.9%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1.04	0.194146

従来の「一み」はいずれも違和感なく使用されていることがうかがえる。しかし「妙味」だけは違和感の程度が他と比べてかなり大きく、標準偏差から見ても安定した表現でないことが分かる。杉岡(2005)では、従来の用法の中で拡張的に形容詞以外に「一み」が接続する例として非自立語である「妙」が挙げられており、日本国語大辞典にも「妙味」は立項されている。正用として扱われているはずの言葉でもその安定性は担保されておらず、「一み」が接続できる言葉は私たちの認識によって決定されているといえるのではないだろうか。

②名詞+新しい「一み」^{vii}

【表5 名詞+新しい「一み」の違和感の程度】 N=103

例文	違和感の程度					平均
	1	2	3	4	5	
あちこち歩いて 満足味 のある一日だった	21(20.4%)	18(17.5%)	17(16.5%)	28(27.2%)	19(18.4%)	3.06
ご当地キャラに ポケモンみ を感じる	15(14.6%)	23(22.3%)	14(13.6%)	17(16.5%)	34(33.0%)	3.31
普段着だが ドレスみ もある服	9(8.8%)	9(8.8%)	12(11.8%)	23(22.5%)	49(48%)	3.92

感情を表す名詞である「満足」、固有名詞「ポケモン」、普通名詞「ドレス」の3語に「一み」をつけ、違和感の程度を計った。いずれの名詞も違和感の程度の平均は3.0~4.0であったが、「満足」と「ポケモン」は、「ドレス」と比較してやや違和感の程度は中に納まるという結果になった。

③数詞・代名詞・感嘆詞+新しい「一み」(N=103)

【表6 数詞・代名詞・感嘆詞+新しい「一み」の違和感の程度】 N=103

例文	違和感の程度					平均
	1	2	3	4	5	
その写真の猫のシルエット 2 みあるよね	0(0.0%)	2(1.9%)	4(3.9%)	11(10.7%)	86(83.5%)	4.76
大事な所で失敗してしまうところに 私 みを感じる	9(8.7%)	8(8.7%)	24(23.3%)	20(19.4%)	42(40.8%)	3.76
「代わりに日誌書いておくね」 「 ありがとみ! 」	0(0.0%)	3(2.9%)	3(2.9%)	8(7.8%)	89(86.4%)	4.78

これらは総じて違和感の程度が大きく、日常的に使用されにくい語基であることが分かる。しかし、「2」「ありがとう」と比較すると、「私」は違和感の程度が4未満となっており、これについては検討していきたい。

④動詞 (+願望) +新しい「一み」

【表7 動詞 (+願望) +新しい「一み」の違和感の程度】 N=103

例文	違和感の程度					平均
	1	2	3	4	5	
iPhone 壊れみ …	2(1.9%)	2(1.9%)	3(2.9%)	13(12.6%)	83(80.6%)	4.68
雪で電車が 止まりみ で悲しい	0(0.0%)	3(2.9%)	1(1.0%)	15(14.6%)	84(81.6%)	4.75
猫が 悟りみ 溢れる顔をしている	4(3.9%)	20(19.4%)	16(15.5%)	28(27.2%)	35(34.0%)	3.68
課題が多すぎて 慌てみ を感じている	1(1.0%)	4(3.9%)	3(2.9%)	25(24.3%)	70(68%)	4.54
「この漫画おもしろくない？」 「 わかりみ が深い。」	69(67.0%)	23(22.3%)	9(8.7%)	0(0.0%)	2(1.9%)	1.48
さみしいので、一人暮らし やめたみ しかない	8(7.8%)	21(20.4%)	19(18.4%)	19(18.4%)	36(35%)	3.52
新作のお菓子がおいしそう！ 食べたみ	15(14.6%)	23(22.3%)	22(21.4%)	16(15.5%)	27(26.2%)	3.17
興味のない話が続き、 帰りたいみ が増してきた	25(24.3%)	37(35.9%)	14(13.6%)	13(12.6%)	14(13.6%)	2.55

これらの動詞の中で、最も違和感が少ないとされるのは「分かる」であった。そのほかにも、「帰りたい」は3未満、「食べたい」「やめたい」「悟る」は4未満となっており、違和感がないと回答した人が複数確認できる結果となった。

⑤形容詞+新しい「一み」

【表8 形容詞+新しい「一み」の違和感の程度】 N=103

例文	違和感の程度					平均
	1	2	3	4	5	
この問題、 難しみ …	9(8.7%)	13(12.6%)	12(11.7%)	31(30.1%)	38(36.9%)	3.74
昔の絵なのにむしろ 新しみ を感じる	21(20.4%)	20(19.4%)	13(12.6%)	23(22.3%)	26(25.2%)	3.13
スカートの 短み が気になる	0(0.0%)	4(3.9%)	3(2.9%)	18(17.5%)	78(75.7%)	4.65
うちの犬は かわいみ に溢れている	3(2.9%)	17(16.5%)	13(12.6%)	19(18.4%)	51(49.5%)	3.95
ATMの行列、 長すぎてやばみ	58(56.3%)	26(25.2%)	12(11.7%)	4(3.9%)	3(2.9%)	1.72

「新しみ」から形容詞の種類が制限が喪失し始めている可能性が指摘できる。

これらの中でも突出して「やばい」の違和感が最も小さく、非常に安定した表現であることが分かる。また、「新しい」は中程度、「難しい」「かわいい」「短い」の順に違和感が大きくなっている。

⑥形容動詞+新しい「一み」

【表9 形容動詞+新しい「一み」の】違和感の程度】 N=103

例文	違和感の程度					平均
	1	2	3	4	5	
このお菓子は 高級味 のある包装だ	20(19.4%)	15(14.6%)	18(17.5%)	23(22.3%)	27(16.2%)	3.21
にぎやかみ 溢れる中心街	15(14.6%)	14(13.6%)	13(12.6%)	20(19.4%)	41(39.8%)	3.56
新しい機能が増えて 便利味 が増した	6(5.8%)	16(15.5%)	5(4.9%)	25(24.3%)	51(49.5%)	3.96

これらの形容詞はどれも違和感の程度が3以上4未満に収まった。もっとも違和感の程度が低かったのは「高級」であった。

⑦オノマトペ+新しい「一み」

【表10 オノマトペ+新しい「一み」の違和感の程度】 N=103

例文	違和感の程度					平均
	1	2	3	4	5	
コンサートホールに到着してから ドキドキみ が収まらない	2(1.9%)	3(2.9%)	2(1.9%)	30(29.1%)	66(64.1%)	4.5
新しいシャンプーを使ったら、 髪 のさらさら み が増した	18(17.5%)	19(18.4%)	20(18.4%)	20(19.4%)	27(26.2%)	3.18
豆腐を入れると生地 もちもちみ が増します	6(5.8%)	15(14.6%)	17(16.5%)	29(28.2%)	36(35.0%)	3.72
このエビフライは衣の サクみ がポイントです	3(2.9%)	3(2.9%)	7(6.8%)	32(31.1%)	58(56.3%)	4.35

3以上4未満が「さらさら」「もちもち」、4以上5未満が「ドキドキ」「サクサク」という結果となった。

4.5 使用の実態について (Q48/Q49)

実際に、どのような「一み」が使用されているのかを明らかにするために、新しい「一み」を使用する目的・意図、最近使用した「一み」について自由記述で回答を募集した。従来の「一み」について回答しているものや、使用する媒体について回答しているものもあったが、今回の趣旨と反するため集計しなかったほか、一人の回答者が複数個回答しているものもあるため、回答数は回答者数と異なる。

【表11 新しい「一み」を使用する目的・意図】(最大人数は93)

使用目的	人数
あるものを既存のもののイメージ・性質でわかりやすく表現するため	21
会話に親しみやラフさを出し、面白く演出するため	48
言葉を簡略化させるため	3
周りの人が良く使っているため	10
感情や状態を強調するため	7
やわらかい・かわいい印象を与えるため	4
特定の集団で確立している表現方法だから	3

特に理由はない	8
---------	---

表 11 を見て分かる通り、回答は 8 種類に大別することができた。会話の面白さや、言葉の強調が多く上げられており、新しい「一み」が会話の促進を目的として使用されていることが明らかとなった。

加えて、「あるもののイメージ・性質を既存の言葉でわかりやすく表現するため」といった回答も多くみられ、あるものの内部にある性質・状態を表現するという名詞化接尾辞「一み」の本来の性質が失われていないことも示唆された。新しい「一み」はあるものの中にある性質や特徴を相手に緩やかに主張、共有する際に非常に適した言葉として利用されていると考えられる。

【表 12 最近使用した新しい「一み】(最大人数は 93)

品詞(回答数)	内訳
名詞(14)	固有名詞(8)、母親・ママ(2)、メンヘラ(1)、雄(1)、予備校(1)、良さ(1)
動詞(32)	分かる(30)、あげる(2)
動詞+願望(8)	会う(2)、食べる(2)、帰る(2)、入る(1)、行く(1)
形容詞(37)	やばい(10)、眠い・眠たい(9)、つらい(6)、しんどい(4)、尊い(3)、 うれしい(2)、悲しい(2)、深い(1)
形容動詞(2)	無理(2)
オノマトペ(4)	バブ(4)

最近使用した新しい「一み」の品詞として、最も多く挙げられたのは形容詞であった。挙げられた形容詞を細川(1993)ⁱⁱⁱに基づき分類すると、発話者の心の様子を表すことができるものが 5 種類(眠い/つらい/しんどい/うれしい/悲しい)、そうでないもの(やばい/尊い)が 2 種類であった。より主観的にとらえられやすい語が多く使用されていると言える。一方で最も多く上げられた単語は動詞「分かる」であった。この語は「Q13~Q46 違和感の程度」においてその平均が 1.46 であったことから、安定して使用されていると考えられる。

4.6 メディア内で用いられる「一み」(Q53/Q54/Q55)

続いて、どのようなメディアで誰が新しい「一み」をしているかという実態を把握するために、新しい「一み」をどのようなメディアで目にした又は耳にしたか、どのような「一み」が使用されていたか、誰が使用していたかについて回答を募った。「Q53. 新しい「一み」を使用していた媒体」は複数回答を可とし、「Q54. Q53 で使用されていた新しい「一み」」「Q55. 使用していた人物・場面」は自由回答とした。なお、質問の趣旨に反する回答は集計しなかった。回答は以下のとおりである。

【表 13 新しい「一み」を使用していた媒体】（人数の最大は 132）

媒体	人数
テレビ	30(22.7%)
ラジオ	6(4.5%)
新聞	0(0.0%)
広告	4(3.0%)
文字主体の SNS (Twitter、Instagram 等)	111(84.1%)
音声主体の SNS (YouTube 等)	61(46.2%)
目にした、耳にしたことはない	8(6.1%)

【表 14 メディアで使用されていた新しい「一み】（人数の最大は 103）

品詞(回答数)	内訳
名詞(9)	固有名詞(4)、雄(1)、カス(1)
動詞(46)	分かる(41)、上げる(4)、うける(1)
動詞+助動詞「たい」(5)	会う(2)、やる(1)、食べる(1)、飼う(1)
動詞+助動詞「ない」(1)	あり得ない(1)
形容詞(60)	つらい(21)、眠い・眠たい(12)、尊い(7)、嬉しい(6)、しんどい(5)、えぐい(3)、恥ずかしい(1)、悲しい(1)、エロい(1)、うざい(1)、すごい(1)
オノマトペ(10)	バブ(10)
感嘆詞(2)	おはよう(2)
句(1)	おなかすいた(1)

SNS が主流ではあるもののテレビ、ラジオ、広告といった広く人の目に触れるメディアにおいても新しい「一み」が広まりつつあることが確認できた。また、具体的に誰が新しい「一み」を使用していたかという項目では、友人や SNS 上のフォロワーのほかに「10代から 20代の若者」「ギャル」「オタク」という回答も多く寄せられた。具体的な使用者の名前として、佐伯ポインティ(28歳)^{ix}Kemio(26歳)^x、丸山礼(24歳)^{xi}等の YouTuber、マツコ・デラックス(49歳)^{xii}やフワちゃん(27歳)^{xiii}等のタレントが挙げられた。新しい「一み」の使用者の一般的なイメージは「20代前後の派手な女性またはオタク」であるといえるが、実際に名前を挙げられた方の年齢は 20代後半が大半を占め、中には 49歳という年齢も見る事ができる。多くの人が想像している新しい「一み」の使用年齢層と実際の使用年齢層に乖離が生まれているのではないだろうか。

4.7 非使用者から見た新しい「一み」の印象 (Q56/Q57/Q58)

「Q5. 新しい「一み」の認知」において新しい「一み」を「知らない」と回答した19人に対して、「ねむみ」「高級み」「分かりみ」の三つの例文に感じる印象を自由記述で回答してもらった。

4.7.1 Q56. 徹夜したからねむみがすごい

「本当に眠いか、話題作りのために眠そうに振る舞っていきそう」「なんか言葉に丸みがある印象」など、会話促進や緩和といったこれまでに指摘されている新しい「一み」の用法に則した回答が多くみられた。一方で、「あほそう」「違和感がある」「日本語が変だと感じる」などマイナスな印象も複数見られた。

4.7.2 Q57. 高級み溢れるパッケージ

「高級感が更に漂う」という強調を示す回答は1件にとどまった。「高級じゃなさそう」「親しみやすい」といった緩和効果を示すものや「二字熟語に「み」がつくのは違和がある」「この場合「高級味」の方が個人的にしっくりくる。」「みがひらがなののが高級感を少し薄めてしまってもうまく伝わらない気がする」という回答も寄せられた。日本国語大辞典では「一味」について、「漢語の「味」と混同して意識され、「味」を当て字として用いることも、近代には多い」と述べられている。また、杉本(2015)は従来の「一み」成立の過程において、「愛嬌味」「芸術味」のような漢語名詞、形容動詞に「一味」が結合した例がみられることを指摘している。新しい「一み」においても同様であり、漢語熟語には「一味」が優先して使用される傾向があるとみてよいだろう。「一み」と「一味」がそれぞれ接続しやすい言葉とその意味については考察で述べたい。

4.7.3 Q58. その解釈は分かりみが深すぎる

「ギャルっぽい」「女子高校生が使いそう」といった使用者のイメージへの言及が多くみられた。また、今回唯一「意味が分からない」「意味がよく分かりません」など、語の意味を理解できないという回答が寄せられた。

5. 考察

5.1 新しい「一み」の用法と使用者の拡大

5.1.1 SNSにおける新しい「一み」の拡大

まずは新しい「一み」がどこから発生して、どのような拡大をしてきたのか確認したい。

「Q48. 「一さ」と比較した「一み」の印象」において、

- ・言葉尻が丸いというか、友達に向けて言っているような印象を抱く(回答者番号 72)
- ・SNS でよく使われる、若者っぽい印象を持つ(回答者番号 110)
- ・ラフな印象。友達だと親しみやすいが、目上の人の前では失礼な印象を受けます(回答者

番号 127)

のように「親しみやすい、フランク」「若者っぽい」「最近の流行」という回答が多くみられた。これらは、以下の渡辺(1981: 14)はスラングの定義に当てはまる。

- (1) 集団の成員がそれをつくって、楽しむ。さらに成員同士がそれを使って楽しむ。つまりスラングとは、集団の成員にとって、つくる、そして遊ぶという機能をもった集団語である。
- (2) 集団の成員同士がそれを使うことによって、相互の連帯感や親愛感を確認し、強化し合う。つまりスラングには、集団の成員同士の心理的な結合を強化する機能がある。

上に挙げた回答が渡辺のスラングの定義に当てはまることから、新しい「一み」は SNS という特定の集団の内部での親密度を高めることを目的にスラングとして普及し、使用されていると考えられる。

また一方で、同設問において

- ・その状態や性質をより体感的に表現している (回答者番号 82)
- ・軽い印象。より自分のことであるような主観性を感じる。(回答者番号 145)

のような、新しい「一み」の語基の性質や印象についての回答も、少ないながら見ることができた。

宮内(2021)は『現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)』の検索から用例を複数挙げ、2000 年前後には味覚、嗅覚、色覚の表現における「一み」の拡張が発生していたことを指摘している。加えて、感情表現、人や事柄の性質、外形的性質などが「一み」の語基として使用されている事を受け、「一み」の語基選択は「個人の言語感覚に基づくものと思われ、広く起こる現象ではないものの、ある程度の自由度が従来から内在していたものと見られる。」と結論付けている。杉岡(2005)も述べているように、従来「一み」は表現対象の性質や内部性を表現することを目的とし意味的整合性が認められる場合、制限を拡張して接続しやすい接尾辞であったと言える。

上記の回答から、新しい「一み」もまた同じ性質を内包していると言えよう。お互いの顔が見えず文字表現に依存した SNS において、「一み」は親密度を高めるだけでなく、発話者の主観的な感情や感覚、印象を簡単に表現できる便利な言葉として認知され、普及していったと考えられる。

以上の考察より、SNS で使用される新しい「一み」には名詞化のほかに

- ①集団内での親密度を高める
- ②感情や感覚、対象の性質や印象を主観的に表現する

という二つの働きが内包されていると考えることができる。

5.1.2 リアルにおける新しい「一み」の拡大

今回、「Q8.使用対象」の設問では「親しい友人」が101件(98.1%)であり「SNS上の不特定多数、匿名の人」の52件(50.5%)を大きく上回ったほか、「Q9.使用場面」では「友人、知人、家族等との会話」が94件(91.3%)で、「1対1のチャット型SNS(LINE、Twitter・InstagramのDM、リプライ等)」73件(70.9%)、「不特定多数へ向けた投稿型SNS(Twitter・Instagramの投稿等)」53件(51.5%)を上回る結果となった。

宇野(2015)は「新しいミ形は、TwitterというSNS上に見られ、Twitterのユーザーという集団が用いる人工的に作られた語形であることからネット集団語であると言える。」としている。しかし、上記の調査結果に加え、「Q53. 新しい「一み」を使用していた媒体」において「テレビ」「ラジオ」というSNSを使用しない人も受信できる媒体での使用が確認できた。「Q55. 新しい「一み」を使用していた人物・場面」では、20代後半のタレントの名前が多く上がり中には40代のタレントも挙げた。新しい「一み」はネットという集団を抜けて、リアルの世界で幅広く使用されていることが読み取れる。

上述のように新しい「一み」のリアルの世界での認知、使用が広まっている要因として注目したいのはコミュニケーションにおけるポライトネス(配慮表現)の重要性だ。

滝浦(2008: 34-39)はBrown and Levinson(1987)のポライトネス理論を参照し、2つのポライトネスの特徴について以下のように述べている。

ポジティブ・フェイス、すなわち“他者に受け入れられたい・よく思われたい”という他者評価の欲求を顧慮する戦略が、ポジティブ・ポライトネスである。定義上このタイプのポライトネスは、直接的表現と近接化的表現によって、相手との距離を縮め、相手とともに事柄に直接触れようとする、表現の共感性が特徴となる。(中略)また、一見分かりにくいが愛称や内輪言葉を使う、冗談を言うといったことも、人間関係が近く共通基盤が大きいからこそ可能な表現手段として、このカテゴリーに含まれる。(中略)

ネガティブ・フェイス、すなわち“他者に邪魔されたくない・踏み込まれたくない”という自己決定の欲求を顧慮する戦略が、ネガティブ・ポライトネスである。定義上、このタイプのポライトネスは、相手の領域に踏み込むことや直接名指すことを避け、遠隔化的表現と間接的表現によって、相手を遠くに置き、事柄に触れないようにする、表現の敬避性を特徴とする。(中略)依頼等の言語行為を間接的に表現すること、出来事を“いま・ここ”の時空に置かないようにして報告する間接

話法、“わたしーあなた”を明確化しない語り口など、どれもネガティブ・ポライトネスとして典型的な手段である。

これらのポライトネスと先に提示した SNS における新しい「一み」の働きを合わせてみる。先述したように、新しい「一み」はスラングとして認識され「親しみやすい、フランク」といった印象を与える効果がある。こういった①集団内での親密度を高める働きは滝浦の述べる「愛称や内輪言葉を使う、冗談を言うといったこと」の一種であり、このことから新しい「一み」はポジティブ・ポライトネスとしての機能を内包していると言えよう。「Q52. Q49 で使用した新しい「一み」の意図」の回答として、

- ・わかりみが深い。：普通に「わかる」と言うよりも強い感じがする。(回答者番号 40)
- ・推しのバブみがすごい：ユニークな言い回しをして楽しさやニュアンスを加えるため(回答者番号 124)

といった相手との会話を盛り上げ、距離を縮めようとする意図がみられるものや

- ・推しの尊みが深い。：単に「尊い」というより「尊みが深い」は大袈裟に表現している気がするため、より大袈裟に表現しようという意図があると思う。(回答者番号 123)
- ・マクド食べたみ：食べたい気持ちをより強く伝えるため(回答者番号 74)

といった自分の感情を誇張して面白さを出す意図があることから、その可能性が指摘できる。

一方で新しい「一み」の②感情や感覚、対象への印象を主観的に表現する働きは、あくまで発話者の発言は主観的で個人的な感覚を表現しており、共感を強制するわけではないと相手に示すことができることから、ネガティブ・ポライトネスの機能も含んでいる可能性が示唆される。加藤(2018:144)は従来の「一さ」と「一み」の違いについて論じ、「「さ名詞」は、「ある事物に対して人々が一般的に抱く感情で、他の人とある程度共有できる」「身体に伴う感情」「ある事物の外的要素に感じる感情」を表す。一方の「み名詞」は「個人的感情であるため、共有することが難しい」「精神に関わる感情」「ある事物の内部要素に感じる感情」を表す。」としている。これは新しい「一み」においても同じことが言えるだろう。

ある対象について、発話者がある特定のイメージを持っておりそれを表現する際に「一さ」を使用するとそこには「同じ考えを共有できる」「共感してもらえるだろう」という意図が生まれてしまう。一方で「一み」を使用すると、そこには「個人的で内的な感情・印象である」「深く共有、共感しない、またできなくともよい」という意図が生まれるのである。これについて、「Q49. 最近使用した「一み」」で得られた回答を抜粋し、例を挙げて

考えてみたい。

- ・このキャラクターにばぶみを感じる。(回答者番号 110)

回答者はこの例文について、「キャラクターの可愛らしさや庇護欲を掻き立てられるという特徴を説明するため。」を使用理由としている。たとえ回答者と受け手の間で「バブ(赤ちゃん)」に感じる印象、雰囲気異なっていたとしても、「一み」を使用しているため、受け手はあくまで個人的、内的な感情を表現しているのだと認識し、回答者にとっては「このキャラクター」は赤ちゃんと共通したイメージ、特徴を持っているのだろうと理解することができる。受け手が赤ちゃんに「可愛らしさや庇護欲」といったイメージを持っていなくとも、「一み」によって発話者の表現を内的なものにすることでコミュニケーションが円滑に成立するのである。

このように、感情を相手に押し付けることなく表現し、発話者と受け手の間におけるある対象に対する認識・イメージのずれを表面化させないことで、ごく緩やかな共有を図りながら衝突を避ける働きはネガティブ・ポライトネスの一種であると言える^{xiv}。

しかし、全体的に見ると①集団内での親密度を高めることを目的としているという回答が多く、現段階において新しい「一み」はポジティブ・ポライトネスの要素をより多く含んでいると考えられる。

これまで新しい「一み」が両ポライトネスの要素を含んでいることを指摘した。他者との緩やかな共有を図り衝突を避けながら、親密度を上げることができるという新しい「一み」の特徴は SNS に限らず、対話においても非常に使い勝手の良いものであると言えよう。コミュニケーション上の利便性の面から、新しい「一み」はリアルの世界でも注目され、普及していくのではないかと考えられる。また、今後新しい「一み」が内包するネガティブ・ポライトネスの機能が強まれば、特定の集団に限らず使用される可能性もあり、観察し続ける必要がある。

5.2 品詞による用法の違い

ここで新しい「一み」の語基の品詞とその用法の関連に注目したい。最近使用した新しい「一み」とその使用意図について尋ねた「Q49. 最近使用した「一み」」と「Q52. Q49で回答した「一み」の使用意図」において、品詞ごとの使用意図に違いがみられるからである。回答数が多いため、回答の一部を抜粋して比較する。

○名詞(回答者番号. 例文: 使用意図)

18. (押しキャラクター)にママみを感じる:

キャラクターに対し、ママのような包容力や温かさを感じるということを伝える意図。

41. この授業、予備校みを感じる:

「予備校の授業と似た雰囲気」「予備校っぽさを感じる」と表現するのがまどろっこしかったため。

46. この曲の低音パートは郷間みがあつて面白くない：

同一の作者の作品が、一貫して持っている特徴を短い言葉で分かりやすく説明するため

117. トゲアリトゲナシトゲトゲみ：

当初の定義から2回意味が裏返る形で定義されたもののことを指して、まるでトゲアリトゲナシトゲトゲの名前の由来のようであると伝える意図で使用。トゲアリトゲナシトゲトゲと同様に、特徴的な由来やいわれ、エピソードを持つ単語+みによってその特徴を指すように使うことがある。

○形容詞

51. 卒論がマジつらみ：よりくだけた会話感をだすため
66. この先生の授業、眠みが深い。：眠かった、というよりニュアンスが軽くなる意図
78. やばみが深い。：ふざけて、茶化す感じで言った。

○形容動詞

80. は一まじ仕事むりみが過ぎる：取り繕わずただしんどさを感じている様を伝える意図。

○動詞

57. マクド食べたみ：食べたい気持ちをより強く伝えるため。
79. わかりみが深い：フランクに意見を言う

○オノマトペ

12. この推しの画像、バブみが強い。：
赤ちゃんのようにかわいいということを短く表現できるため。
97. 推しのバブみがすごい：ユニークな言い回しをして楽しさやニュアンスを加えるため

新しい「一み」の使用例として、形容詞、動詞(+願望の助動詞)を挙げた回答73件のうち、表現したい対象に言及する回答は2件しかなく、「会話に親しみやラフさを出し、面白く演出するため」「感情や状態を強調するため」「やわらかい・かわいい印象を与えるため」といった、会話への影響に言及する回答が大半を占めた。一方で名詞、オノマトペを挙げた18件のうち、その使用意図を「あるものを既存のものイメージ・性質でわかりやすく表現するため」「言葉を簡略化させるため」といった表現したい対象に言及する回答は14件に上った。その他の回答は「やわらかい・かわいい印象を与えるため」「会話に親しみやラフさを出し、面白く演出するため」などであった。このことから、形容詞・動

詞・助動詞を「一み」の語基とする場合、①集団内での親密度を高めることを主目的とする場合が多く、名詞・オノマトペを語基とする場合は②感情や感覚、対象への印象を主観的に表現する働きが強くなる可能性が指摘できる。

また、形容動詞にも注目したい。新しい「一み」の語基として挙げられた形容動詞は「無理な」2件のみであった。使用理由は

- ・自分にとっての受け付けなさを表したかった。(回答者番号 43)
- ・取り繕わずただしんどさを感じている様を伝える意図。(回答者番号 125)

であった。回答者番号 43 では「自分にとっての」と述べられているように、相手に心配、負担を掛けないように主観的に「無理だ」という感情を表現する目的で使用されていることが分かる。これは相手との緩衝を意図していると考えられる。一方で、回答者番号 125 では「取り繕わず」と述べられており、会話にフランクさ、軽さを出すことで相手との会話をリズムよく進めようとする意図がうかがえる。

回答数が少ないため断定するに至らないが、形容動詞に「一み」が接続した場合、使用者の意図によって①集団内での親密度を高める働きと②感情や感覚、対象への印象を主観的に表現する働きのどちらを強く表現するか決定できる可能性を指摘できるのではないだろうか。形容動詞はいまだその品詞の立ち位置が定まっておらず、複数の学説がある。村崎(1977:97)はこれらの学説を以下のようにまとめている。

(1)「形容動詞」を一品詞として立てる説。

吉沢義則、橋本進吉によって代表される学説で、この説は、活用することと、述語になりうることなどの動詞的性質と、連体修飾語になること、意味的に状態や情意を表すことなどの形容詞的性質を両方持っている品詞という意味で、これを「形容動詞」とよび、「だろ(未然形)・だっ・で・に(連用形)・だ(終止形)・な(連体形)・なら(仮定形)」などの活用語尾を持つとする説です。

(2)「形容動詞」という独立した品詞を認めず、「体言」(詞)+「助動詞」(辞)と分析する説。

時枝誠枝の説で、これは、いわゆる「形容動詞」を、その体言の部分の独立性を重視してこの部分を体言と見なし、それに断定の助動詞「だ」がついた二語の連続であるとみる説です。

(3)「形容動詞」という独立した品詞を認めず、「形容詞」の一種としてみなす説。
鈴木重幸らの説で、これは、いわゆる「形容動詞」と本来の形容詞が語彙的な意味の性質が同じだけでなく、品詞を性格づける論文的な働き、形態的なカテゴリーが共通であることから、「形容動詞」を形容詞の範ちゅうに入れて「い」で終わる形容詞、つまり本来の形容詞を「第一形容詞」、「な」で終わるもの、つまりいわゆる

「形容動詞」を「第二形容詞」と呼ぶ説です。

形容動詞は名詞、形容詞、動詞の性質を併せ持つ品詞だからこそ、新しい「一み」が接続した際に他の品詞よりも機能の選択に幅を持つことができるのではないだろうか。

5.3 「一み」と「一味」の印象から見た用法の違い

次に「Q56～58. 非使用者から見た新しい「一み」の印象」の回答をもとに、「一み」が後接する場合と「一味」が後接する場合の印象の違いから、どのような用法が指摘できるのか考察を行う。ここで注目したいのは、「Q57. 高級み」である。全19件の回答のうち、3件「一み」がひらがなであることに言及する意見が見られた。

- ・みがひらがなののが高級感を少し薄めてしまっとうまく伝わらない気がする(回答者番号 39)
- ・二字熟語に「み」が着くのは違和感を感じます。(回答者番号 136)
- ・この場合「高級味」の方が個人的にしっくりくる。(回答者番号 150)

これらのほかにも、「高級感が薄い」という意見が4件あり、「Q56. ねむみ」「Q58. 分かりみ」と比べて「一み」に接続する語の意味が弱まったと感じられる傾向が明らかとなった。

杉本(2015)は、「一み」の語基の変遷をまとめたうえで、近世の文学作品には「愛嬌味」「芸術味」といった語がみられることを報告し、漢語名詞や形容動詞に「一味」が接続する例は調査範囲を広げればさらに多く見られるだろうとしている。加えて、従来の「一み」の用法に至るまでの過程について「このように「味」で表記される場合は特に「味わい」「趣き」といった意味が強く感じられ、漱石に多い「和語+味」の例もそのような意味合いが感じられる。現代語では和語に「一味」と表記されることは少なく、「和語+み」の場合、「味わい」「趣き」といった価値が現代語では薄れたといえ、そのことが造語力の衰退にかかわっている。」と述べている。

新しい用法においても、同じことが言えよう。「高級+味」の場合、先述した新しい「一み」の働きのうち②感情や感覚、対象の性質や印象を主観的に表現するという効果が強く働いており、発話者と受け手がそれぞれ「高級」の中を感じる抽象的イメージを表現できると考えられる。また、「高級+み」の印象に対する他の回答として、

- ・親しみやすい(回答者番号 97)
- ・高級感が更に漂う(回答者番号 28)

といった回答が見られたことから、「一み」はスラングや誇張として認識され①集団内での

親密度を高める働きを持っている可能性が指摘できる。

以上「一み」と「一味」の接続と働きの違いの可能性について考察したが、本調査では「高級み」の一例を取り上げたのみにとどまるため、より詳細な調査が求められる。

5.4 新しい「一み」に接続しやすい言葉の傾向

「Q13～Q46. 言葉ごとの違和感の程度について」の調査結果から、新しい「一み」に接続しやすい言葉の特徴について考察する。

例示した「一み」を含む文章における違和感の程度を 1（違和感がない）～5（違和感がある）の 5 段階で評価してもらった。その平均値が 1.00～2.34 のものを低、2.35～3.69 のものを中、3.70～4.99 のものを高とする。表は以下のとおりである。

【表 15 言葉ごとの違和感の程度について】

程度	語	品詞	平均値	程度	語	品詞	平均値
低	とろとろ	オノマトペ（従来）	1.01	高	もちもち	オノマトペ	3.72
低	深い	形容詞（従来）	1.03	高	難しい	形容詞	3.74
低	現実	名詞（従来）	1.04	高	私	代名詞	3.76
低	新鮮な	形容動詞（従来）	1.06	高	ドレス	名詞	3.92
低	温かい	形容詞（従来）	1.07	高	かわいい	形容詞	3.95
低	正	非自立語（従来）	1.23	高	便利	形容動詞	3.96
低	真剣な	形容動詞（従来）	1.37	高	サクサク	オノマトペ	4.35
低	分かる	動詞	1.48	高	ドキドキ	オノマトペ	4.50
低	やばい	形容詞	1.72	高	慌てる	動詞	4.54
中	帰りたい	動詞+願望の助動詞	2.55	高	短い	形容詞	4.65
中	満足	名詞	3.06	高	壊れる	動詞	4.68
中	新しい	形容詞	3.13	高	止まる	動詞	4.75
中	食べたい	動詞+願望の助動詞	3.17	高	2	数詞	4.76
中	さらさら	オノマトペ	3.18	高	ありがとう	感嘆詞	4.78
中	高級な	形容動詞	3.21				
中	ポケモン	固有名詞	3.31				
中	妙	非自立語（従来）	3.45				
中	やめたい	動詞+願望の助動詞	3.52				
中	にぎやかな	形容動詞	3.56				
中	悟る	動詞	3.68				

違和感の程度が低いものについて、9 個のうち 7 個を従来の「一み」が占めており安定した表現であることが確認できた。一方で「分かる」「やばい」も低に含まれている。「分かる」は相手の発話内容や事象に対して共感を示す動詞である。また、「やばい」は広く一般的に「若者言葉」として認知されてきた語であり、否定的にも肯定的にも物事を表すことができる表現である。洞沢・岩田(2009)は形容詞「やばい」について、「ある状況を全体的に捉えて評価する属性形容詞」であり「ある発見的出来事に遭遇したときに感嘆詞のように発話者の瞬間的な感情を独立語的に表現する感情形容詞」になりつつあるとしている。このような語はコミュニケーション上需要が高く、新しい「一み」が持つ強調や会話促進効果と極めて

親和性が高いことから、ある程度定着した表現となっていると考えられる。

違和感の程度が中のものについて、まずは「妙」を確認したい。「妙」は従来の「一み」に接続する言葉の一つであるが、違和感の程度が 3.45 であり、完全に定着している表現とはいえない。これは「妙」という一字漢語自体が使用されなくなっているからであると推察できる。杉岡(2005)は従来の「一み」がつく一字漢語の例として「新味」「醇味」などを挙げているが、これらも「妙味」と同様に使用されなくなっていくと考えられる。一方で、同じ一字熟語を用いている「正味」の違和感が低いことについては、現在 SNS 上で見られる副詞的用法と関係があると考えられる。以下は Twitter において「正味」を検索すると得られる、「正味」の用例である。

(a1) 正味、社会人になったら昼休憩くらいしか Twitter 動かさないよな(2018.5.29)

(a2) 正味ちょっと怖い(2016.5.31)

(a3) 横浜線死んでるから京王線で帰ります定期切れてるから正味なんでもいい(2022.1.12)

これらの「正味」は、「実際には」「正直な所」といった意味の副詞的な熟語として使用されており、「正+味」のように分離できない。「正味」という名詞が副詞化して使用されるようになった可能性^{xv}や、方言が SNS やメディアを通して一般に広まった可能性^{xvi}が指摘できるが、本稿で論じている「一み」とはその用法が大きく異なるようであるため、ここでは「正味」に対する詳しい言及は避けることとする。

次に動詞+願望の助動詞「たい」がすべて中程度に収まっていることにも注目したい。願望の助動詞「たい」の用法を確認すると、以下のようである。

たい

[助動]

(1) 話し手の願望を表わす。

(イ) 話し手自身の行動や状態の実現に対する願望を表わす。…すること、または、…であることを望んでいる。

(ロ) 話し手を中心として、第三者をも含めた人々の願望を表わす。誰もが…すること、…であることは望ましい。

(2) 聞き手または第三者の願望を表わす。間接的な引用や推定などの形をとることもある。…すること、または、…であることを望んでいる。

(3) 聞き手の行為に対する願望を表わす。「れ・られ」「なされ」など敬語に下接する。文章語の用法。…してほしい。…であってほしい。「この件について再検討されたい」

(日本国語大辞典第二版 第八巻 p.579)

今回設問で使用した例文は、どれも発話者の行動や状態の実現に対する願望を示している。「帰りたい」「食べたい」「やめたい」のように、そのままでは自分の願望が前面に押し出されてしまう言葉に対して、「一み」を使用することでフランクさや面白さを追加することができる。自分の気持ちを押し付けずに楽しく会話できる便利な言葉として、受け入れられていると考えられる。

また、同じ名詞でも「満足」「ポケモン」は違和感が中程度であるのと比べて、「ドレス」の違和感の程度が高くなっていることにも注目したい。「満足」は「満足な」のように形容動詞との接点が大い語である。「5.2 品詞による用法の違い」で述べたように形容動詞は他の品詞と比べて汎用性が高く、比較的受容されやすいと考えられる。「ポケモン」は「ドレス」と比較して、多くの人の間で具体的な共通認識があり、想像しやすい。新しい「一み」を使用する際、それがごく緩やかな共有を目的としていても発話者と受け手の間におけるある対象への共通認識は不可欠である。したがって、「ポケモン」をはじめとした具体的なイメージを持った固有名詞は新しい「一み」に接続しやすく、「ドレス」のような種類に幅があり人によってイメージが異なる一般名詞は接続しにくい傾向にあるのだろう。

最後に違和感の程度が高いものについて、まずは動詞を挙げたい。「分かる」「悟る」以外の動詞の違和感の程度は4.50以上とかなり高くなっている。これは「分かる」「悟る」は発話者の内的な事柄であることと対照的に「慌てる」「止まる」「壊れる」は発話者の周辺の客観的な事柄を指す場合が多く、新しい「一み」の用法と親和性が低いためであると考えられる。つまり、動詞全体が新しい「一み」に接続しないわけではなく、客観的事柄を指す動詞に対する接続が避けられる傾向にあると言える。

また、従来の「一み」に接続する「とろとろ」以外のオノマトペもすべて違和感の程度が高い結果であった。これもまた、ある事象を表現するための語彙であり発話者の内的事柄を指すものではないことから、新しい「一み」の用法に接続しがたいのだと考えられる。

6. まとめ・今後の展望

本稿では、若者言葉やネット用語とされてきた新しい「一み」の表現が、単なる流行ではなく日本語としての変化の一部なのではないかという疑問から端を発し、その実態とこれからの用法の着地点について調査及び考察を行った。

新しい「一み」が名詞化に加え、大きく2つの用法を持っており、従来の「一み」の用法よりも汎用性の高い用法へと変化していることが確認できた。加えて、調査で明らかとなった品詞の種類ごとの用法と「一み」の表記方法の傾向は以下の図4のように示すことができる。

また、新しい「一み」が接続しやすい言葉には、発話者の感情や思考、願望といった主観的な事柄を指すものや発話者と受け手の間である程度共通の認識や印象を持つことができるといった特徴があることが明らかとなった。

室

- 滝浦真人(2008)『ポライトネス入門』研究社
- 細川英雄(1993)「形容詞の主観性について」『早稲田日本語研究』第一号 pp.78-65 早稲田大学国語学会
- 洞沢伸・岩井奈津紀(2009)「若者たちの間に広まる「やばい」の新しい用法」『岐阜大学地域科学部研究報告』第25号 pp.39-58 岐阜大学地域科学部
- 水野みのり(2017)「ネット集団語における接尾辞「一み」の語基拡張」『思言 東京外国語大学記述言語学論集』第13号 pp.167-174
- 宮内佐夜香(2021)「BCCWJを活用した接尾辞「一み」の実態調査」『中京大学文学会論叢』第7号 pp.234-250 中京大学文学会
- 村崎恭子(1977)「「名詞形容詞」について—いわゆる形容動詞の扱い方—」『日本語学校論集』第4号 pp.96-103 東京外国語大学外国語学部附属日本語学校
- 森田良行(1989)『基礎日本語辞典』 角川書店
- 守弘・梅津・炭谷(1996)「若者のメディア行動とコミュニケーションの多様化—「若者のライフスタイルとメディア行動に関する調査」に見る男女差—」『社会関係研究』第2号(1)pp.21-65 熊本学園大学社会関係学会
- 杉本裕子(2015)「近世近代における接尾辞「み」—結合の拡大と衰退—」『国語研究』第78号 pp.10-23 國學院大學国語研究会
- 田中幸奈(2020)「形容詞の名詞化に使われる接尾辞「み」の用法の変化」『日本文学ノート』第55号 pp.192-158 宮城学院女子大学日本文学会
- 渡辺友左(1981)『隠語の世界：集団語へのいざない』南雲社
- 小学館国語辞典編集部編(2000-2002)『日本国語大辞典 第二版』小学館
- Brown, P. & S. C. Levinson (1987) "Politeness: Some Universals in Language Usage" Cambridge University Press.

参考 URL

- 株式会社ポインティ <https://pointy.love/> (最終閲覧日 2021年12月24日)
- 佐伯ポインティ 「【質問コーナー】佐伯ポインティって何なの？」2021年2月3日投稿
https://youtu.be/xPZluzvEE_o (最終閲覧日 2021年12月24日)
- ワタナベエンターテイメント お笑い芸人 丸山礼
<https://www.watanabepro.co.jp/mypage/40000190/> (最終閲覧日 2021年12月25日)
- NHK アーカイブス NHK 人物録 マツコ・デラックス
https://www2.nhk.or.jp/archives/jinbutsu/detail.cgi?das_id=D0009071736_00000 (最終閲覧日 2021年12月25日)
- Rooftop 「フワちゃん—who is huwa-chan?」2018年8月28日掲載

<https://rooftop1976.com/interview/180828122003.php> (最終閲覧日 2021年12月25日)

調査資料

Twitter 高度な検索

<https://twitter.com/search-advanced> (最終閲覧日 2022年1月12日)

-
- i 宇野(2015)は Twitter 調査から新しい「一み」の初出は 2007 年としている。
- ii 田中(2020:43)の調査では、新しい「一み」の使用場面を問う項目で、回答者全体の約 58%が日常会話で新しい「一み」を使用していると回答した。
- iii 新しい「一み」の前提知識として、以下の文言を添えたうえで回答を求めた。

従来の名詞化接辞の「一み」は、形容詞や形容動詞の後ろに接続して名詞に変化させる働きを持った接辞です。かゆみ、人間み、うまみ、苦みというような、感覚を表す限られた言葉にしか使えないという特徴があります。しかし、最近ではこの名詞化接辞「一み」が形容詞、形容動詞に限らず様々な言葉に接続する例が SNS や会話の中で使われるようになってきています。

[例文]

- ・「あのクッション、なんか猫みがあるよね。」「わかるー」
- ・昨日ずっとゲームしてたからマジねむみ。
- ・このキャラ尊みがすごい…
- ・分かりみが深い
- ・「このYoutuberおもしろくない？」「マジうけみ」

この新しい「一み」についてお答えください。

- iv 従来の「一み」例文は杉岡(2005:78)と太田(2017:86)が挙げた例のうち、日本国語大辞典に記載のあるものを採用した。新しい「一み」例文は筆者が 2020 年 12 月に行った一次調査の回答と田中(2020)を参考に、Twitter において使用が確認できるものを採用した。
- v 「Q5. 新しい「一み」の認知」において、新しい「一み」を「知らない」と回答したにもかかわらず、「非認知者から見た新しい「一み」の印象」において「使用したことがある」という旨の回答をしていたものを除外した。
- vi 金(2016:295)は「観測値と期待値の値に 5 未満のデータがある場合は、フィッシャーの直接確率検定 (Fisher's exact test) の結果を報告することが推奨されている。」としているため、本稿でもこれに倣うこととする。
- vii 例文「普段着だがドレスみもある服」のみ、回答者一名が未記入だったため総回答数が N=102 となっている。これはアンケートの作成不備によるものであることを申し添え、反省としたい。

viii 細川(1993)は

①「わたしは～い。」の形で、「わたし」の心の様子を表すことが可能か。

②対象内容としてモノ・コトのいずれをとるか。

の2つの調査指標を用いて現代語形容詞 501 語を調査し、5 種類に分類できるとした。形容詞は「感覚形容詞1」「感情形容詞」「評価性形容詞」「属性形容詞」「感覚形容詞2」の順に客観性が強くなるが、細川は状態表現としての形容詞を「状態表現全体が、話し手の主観に根差した主観的表現とする」(p.67)と述べており、決して形容詞の主観性が失われることはないとしている。

^{ix}自身の YouTube 動画(https://youtu.be/xPZluzvEE_o)及び会社 HP(<https://pointy.love/>)より引用

^x所属事務所 HP(<https://www.miha.co.jp/new/creator/143/>)より引用

^{xi} HP(<https://www.watanabepro.co.jp/mypage/40000190/>)より引用

^{xii}NHK 人物録

(https://www2.nhk.or.jp/archives/jinbutsu/detail.cgi?das_id=D0009071736_00000)より引用

^{xiii}Rooftop インタビュー記事(<https://rooftop1976.com/interview/180828122003.php>)より引用

^{xiv}滝浦(2008:40)が挙げているネガティブ・ポライトネスの10の下位ストラテジーのうち、「ストラテジー2:質問する・曖昧化する(Question, hedge)」に当てはまると言えそうである。

^{xv}三枝令子(2013)「名詞から副詞、接続詞へ」『一橋大学国際教育センター紀要』第4巻 pp.49-61 一橋大学国際教育センター

^{xvi}「正味」小学館国語辞典編集部編(2001)『日本国語大辞典 第二版』第7巻 p.269 小学館

謝辞

卒業論文の執筆にあたって、調査の回答及び拡散に快く協力して下さった友人や知人、そのご家族の方々に、この場を借りて深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。